国連軍後方司令部 司令官交代式

The United Nations Command (Rear) change of Command

February 4, 2016

Original text by Osakabe Yasuo
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で1月26日、国連軍後方司令部の司令官交代式が執り行われ、オーストラリア空軍バーバラ・コートニー大佐からマイケル・ジャンセン大佐に指揮権が移譲された。

式の執行官は、国連軍兼在韓米軍（所在地：韓国ソウル・龍山（ヨンサン）基地）副参謀総長ジェームス・スライフ空軍少将が務めた。

「60年以上の間、国連軍の揺るぎない取り組みは、北東アジアに安定、安全保障、経済の進展をもたらした。それでもなお、近年の情勢は、朝鮮半島の停戦を維持し、侵略を抑止するための即戦力が改めて必要とされている。国連軍の使命の一部は、戦時には国連軍司令部に対する作戦支援および朝鮮半島への国連軍構成国の後続戦力展開を支援する任務を遂行するため、日本に置かれている国連軍後方司令部本部を長年維持することにある」

「日本と韓国の国家、国連軍構成国、在日米軍チーム、国連軍の隊員たちとの関係を樹立し、前任のコートニー大佐は戦時に耐えられる骨組みを築いた。我々はその連携体制を持っている」とスライフ少将は式典の挨拶で述べた。

日本における国連軍の代表として、国連軍後方司令部は、朝鮮半島の停戦時には国連軍地位協定（SOFA）を維持する。有事においては、日本国内の後方基地を拠点とした戦略支援と朝鮮半島への国連軍構成国からの追加支援を受け入れる支援を行う。

国連軍に認められた後方司令部の構成国は、オーストラリア、カナダ、フランス、ニュージーランド、フィリピン、タイ、トルコ、英国の8か国である。

就任の挨拶を述べる国連軍後方司令官部 新司令官
マイケル・ジャンセン豪空軍大佐

国連軍後方司令官部 新司令官のジャンセン豪空軍大佐（左）と握手を交わす在日米軍兼第5空軍司令官ジョン・ドーラン中将（右）